

記事

Miscellaneous
Reports

第13回日本ジオパーク全国大会 in 関東におけるガイド研修会の報告

Report on the Guide Training Workshop at the 13th Japanese Geopark Networks Conference in Kanto

福島 大輔¹・西谷 香奈²・今井 ひろこ³・山崎 真流子⁴・田畑 朝恵⁵・松本 宏樹⁶・江川 理恵⁷・
荒町 美紀⁸・吉野 弘子⁹・荒川 和子¹⁰・永田 ゆき子¹¹

FUKUSHIMA Daisuke¹, NISHITANI Kana², IMAI Hiroko³, YAMASAKI Mariko⁴, TABATA Asae⁵, MATSUMOTO Hiroki⁶,
EGAWA Eri⁷, ARAMACHI Miki⁸, YOSHINO Hiroko⁹, ARAKAWA Kazuko¹⁰ and NAGATA Yukiko¹¹

1: 桜島ミュージアム 2: グローバルネイチャークラブ 3: たじま海の学校 4: 阿蘇ジオパークガイド協会 5: まちこん伊東
6: 然別湖ネイチャーセンター 7: Sotoasobu 8: 有限会社アラマチ 9: ゆざわジオパークガイドの会 10: 筑波山地域ジオパーク
ジオガイド 11: 島原半島ユネスコ世界ジオパークガイドの会
1: Sakurajima Museum 2: Global Nature Club 3: Tajima Marine School 4: Aso Geopark Guide Association 5: Machikon ITO 6:
Lake Shikaribetsu nature center 7: Sotoasobu 8: Aramachi Co., Ltd 9: Yuzawa Geopark Guide Association 10: Mt. Tsukuba Area
Geopark Guide 11: Unzen Volcanic Area UNESCO Global Geopark Guides Association

2024年1月12日投稿, 2024年4月4日受理

実施概要

ガイドに必要とされるインタープリテーション技術。うまくいくインタープリテーションはTORE「強力なテーマがあり (T) 簡単についていけるように整理されていて (O) 来ている人にとって関連があって (R) 楽しい (E)」という4つの要素が揃っている。今回の研修会では、他地域ガイドとの交流を深めつつ、TOREの基礎を学び、実践者たちからの経験談をもとに、参加者同士、互いに学び合うことを目指した。参加者数は114名。

実施報告

1. TOREの講義と質疑応答

講師：山田菜緒子氏（金沢大学）

①インタープリテーションとは何か？

指導や指示でなく触発である。参加者が意味や関係、つながりを見出せるようにインプリターが触発することである。

②なぜインタープリテーションするのか？

楽しい時間が欲しくて、自らの意思で参加する人に対し、必要なコミュニケーションだから。

③インタープリテーションは、どのようにするのか？

強力なテーマをもって (T) 簡単についていけるように整理されていて (O) 来ている人にとって関連があって (R) 楽しい (E) ものにすることが望ましい。

(T・テーマ)

テーマは伝えたいこと。テーマはトピックではない。テーマは一文である。ストーリーの要素を持っていると強力なテーマになる。

(O・構成)

努力せずについていける。流れがある。情報が論理的に示されている。

人が一度に理解できる数は4（心理学で決まっている）なので、新しい情報は4つまで。

(R・聞き手と関連がある)

聞き手が知っている情報が結びつくから意味が生まれる。気にしていること、重要なこととつながると自分ごとになる。自己参照（ハンコ使ったときのこと思い出してくださいなど）とラベリング（今日、千葉県以外から来ている人に重要な情報があります、など）ユニバーサルコンセプト、世界中の人に関連があること（生死、健康、食など）。

(E・楽しい)

コメディだけでなく、注目せずにいられない注意を引き続けられる楽しさ。

インフォーマルな雰囲気など。

④インタープリテーション (TORE) すると、どうなるのか？

参加者が考えたり感じたりするようになる。（感情が動かないインタープリテーションで良いのですか？ということ）それにより態度や価値観が好ましいものになる。参加者の違いを意図的に作ることができる。

講習後、参加者は隣の席同士で、感想を述べ合い「勉強になった。話術を学びたかった。触発は大切。ナラティブなガイドとの関連は？」などの意見、質問が出た。

2. TOREのデモトーク&ディスカッション

講師：福島大輔（桜島・錦江湾ジオパーク）

福島が桜島火山と、椿についてデモトーク（各5分ほど）。

参加者は前後の席で交代し、隣同士でTOREに沿ってデモトークについての感想を述べ合う。

参加者は積極的に意見交換し「T桜島愛がテーマだと思う。O話の流れスムーズで聞きやすく、わかりやすい構成だった。Rは人間と山の比較や、誰もが知っている富士山、検索すると出てくるイラストなど世代的にみんなやっていること。Eは火山による違いが面白いかった」などの感想が聞かれた。

3. パネルディスカッション

司会：山崎真流子（阿蘇ユネスコ世界ジオパーク）

パネリスト：松本宏樹（とかち鹿追ジオパーク）、荒川和子（筑波山地域ジオパーク）、西谷香奈（伊豆大島ジオパーク）

ガイドに対する事前アンケートの結果とパネリストの意見をもとに、以下の内容について話合った。

①ツアー開始前、TOREに対してどんな印象を持ったか、どんな気持ちだったか？

○難しそう。よくわからないという気持ちで始めた。

○悩んだ答えがもらえるかもしれないと思った。

○ガイド歴30年。自信があり楽勝だろうと思った。

②TOREを学んだ後、印象はどうなったか？

○自然ガイドをしていたが、自然関係や神社いろんな要素があって、言いたいことが3つも4つもあってモヤモヤしていた。TOREを知ってから一つのコースでもテーマ決めることによって、何通りもできるようになった。

○人にアドバイスしやすくなった。

○アドバイスされても傷が浅く、それは道理だなと思えるのが良い。

○たった4つの要素が効いてくる。日本全国のガ

イドツアーがすることに直結すると思う。

○ツアー作っていく過程で、内容がどこからともなく増えてきて、大事なところを隠していく。それを皆がTOREをもとに、選定してくれるのが良いところ。

③TOREを学んで変化したことは何か？

○プレゼンで余分なものを削ぎ落としやすくなり、作るのが楽になった。

○リアルではR(お客様との関連)を考える習慣が身についた。そのためツアーはますます、毎回違うオリジナルなものになった。

○星空ツアーでTOREを意識するようになった。

今月は、どれをテーマにしようか？とか、双子座の人いますか？など、やりとりしている。

○今までは「楽しかったです」といって帰る人がたくさんいたが、オンライン後は「順序立てて、わかりやすくて楽しかったです」という感想がもらえるようになった。TORE実践したらうまく行き、お客様からの反応が変わったのを実感した。

○鬼に金棒、あればやりやすい。

○すごい武器だなと思った。

○エンジョイはエンタメやテクニックだけではない。構成がちゃんとしていて、無理なくついていけるなど、TOREが揃うと、人の個性が違って面白くなるとわかった。

終了後の質疑応答では、ガイドについての悩み、疑問などが話題になった他、今回の分科会が「健康食品の販売みたいだと思った」という意見もあった。

まとめ

今回の研修会は、オンラインツアーを見たことがない参加者が6割いる状況での開催となったため、TOREへの理解度は様々であった。終了後のアンケートは9割以上が「参考にしたい」「勉強になった」など概ね高評価であったが、「テンポが早すぎてついていけない」「後半のシンポジウムが一方的に話を聞く形になりRがなかった」などの意見もあり、今後の企画の参考にしたいと考えている。TOREはガイドにとって大切なことをシンプルにまとめた理論だが、具体的なガイドテクニックを教えてくれるものではない。TOREを軸

とした実践を重ねることで初めて、ガイドが自分自身で成長していく力を身につけ、ガイド同士で的確なアドバイスができるようになる。今後もトレーニングを重ねつつ、全国のジオパークで、お客様の「感情が動く」ガイドを目指していけたらと思っている。

謝辞

お忙しい中、分科会にご参加いただいた皆様、運営にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。